

令和 8 年度研究推進計画

学 校 名 東広島市立中央中学校

校 長 名 小島 弘之

1 研究主題、研究内容・方法等について

(1) 研究主題

『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて

～SEL-8S 学習プログラムを通じた安心・安全な学習集団作りを通して～

(2) 研究主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説総則編では、育成すべき資質・能力の三つの柱として、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」を涵養することが示されている。それらが偏りなく実現されるために、ICT を最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

本校では、望ましい人間関係が「主体的・対話的で深い学び」を支えるという視点に立ち、令和 6 年度から研究実践に取り組んでいる。令和 7 年度は、「社会的能力を高め、学力を定着させる生徒の育成～SEL プログラムの計画的な実践を通して～」を研究主題に掲げ、組織的かつ計画的な SEL プログラムの実践を通して、生徒の学習への取組の変容を促し、社会的能力の向上とともに学力を定着させることを目指した。

取組の結果、各学年で「社会に関する認識」に関する社会情動的スキルの向上が確認され、特に 3 年生においては、「自己認識、責任ある意思決定」や「自己管理」を含めたすべての社会情動的スキルが向上していた。これは令和 6 年度から継続的に SEL を実施したことが、社会情動的スキルの向上に大きく寄与したことが考えられる。また、3 学年の習熟度テストの結果と社会情動的スキルにも正の相関が見られた。しかし、「SEL で学習したことは日常生活で役に立った」の肯定的評価が 48.5%と課題が見られた。

次期学習指導要領の改訂に向けて、広島県では、令和 8 年度「学びの変革」の重点項目として、「安心安全な学習集団のもと、デジタル学習基盤の普段使い」で「主体的・対話的で深い学び」を目指すとする。

そこで、安心・安全な学習集団づくりを SEL を通じて培っていききたい。また、SEL のさらなる展開に向けて、SEL プログラムで学んだことを生かす体験・学習の場を意図的・計画的に設定することで、学級をはじめ学校生活全体の中で社会情動的スキルが役立ったと生徒自身に実感させたい。

以上のことから、SEL を通じた安心・安全な学習集団作りを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、研究主題に設定した。

(3) 研究仮説

SEL8-S 学習プログラムを組織的、計画的に行うことで、社会情動的スキルが向上し、安心安全な学習集団を形成することができるであろう。

(4) 研究内容

「SEL の効果的な活用」を研究する。

(5) 検証の方法及び指標

SEL の取組について、取組前後の生徒及び教員の授業に対する意識調査を比較し、各項目で肯定的評価の割合が 80%以上となることを目指す。

2 検証計画

- (1) 7月、11月、3月に、生徒や教員に授業に対する意識調査を実施し、成果と課題、改善点を明らかにする。
- (2) 授業後に生徒に検証アンケートを行い、SEL の効果を検証する。

3 校内研修計画

- | | |
|--------|---------------------------------|
| 4月 | 校内研修で研究の方向性、研究主題について共通認識を図る。 |
| 4月 | ブロック研修の取組について共通認識を図る。 |
| 7月 | 各教科においてブロック研修を実施する。(2教科) |
| 7月 | 生徒、教員に学習や授業に対する意識調査(1回目)を実施する。 |
| 8月 | 校内研修で、前期前半の振り返りと、今後の取組について確認する。 |
| 9月～11月 | 各教科においてブロック研修を実施する。(4教科) |
| 11月 | 生徒、教員に学習や授業に対する意識調査(2回目)を実施する。 |
| 12月 | 校内研修で、後期前半の振り返りと、今後の取組について協議する。 |
| 1月 | 本年度の成果と課題について整理する。 |
| 3月 | 生徒、教員に学習や授業に対する意識調査(3回目)を実施する。 |
| 3月 | 令和9年度の研究の方向性を検討する。 |

4 研究公開の予定について

公開予定日	なし
公開範囲	なし
公開内容等	なし